

最勝院

最勝院は仏教の天台宗に属する平等院の下位寺院です。17世紀後半から、最勝院の僧と、浄土宗の塔頭である浄土院の僧とで、平安建築（794—1185）の珍しい例である平等院を21世紀まで保護するために協力してきました。

最勝院の歴史は、天台宗の僧が京都の祥泉院から平等院に移り、僧院を設立したことで天台宗と平等院との間に新たな関係を築いた1654年に遡ります。

不動堂は最勝院の本堂に当たります。その主なイメージは、不動明王（サンスクリット語ではアカラ）であります。火焰に座して、煩惱を破壊する力を表す鋭い表情が刻まれた仏教守護です。不動明王のこの図は、平等院にあった他の貴重な工芸品を破壊した、何世紀にもわたり数々の火事を生き延びました。他にも堂内には、仏教、神道、その他の信仰体系を習合させた修験道の祖として8世紀に活躍した修行者、役小角（役行者とも）の像もあります。

不動堂に隣接する小規模な地藏堂には、地藏像が祀られています。地藏（サンスクリット語ではキティガルバ）は、子供と旅人を守護する菩薩であるとされています。地藏像は日本全国の寺や道端にあり、ありとあらゆる人にとっても重要であることがわかります。